

# かななかのぶひろ展

## 日常の実験・実験の映像

### 私が出会った表現者たちV

表現することで、私と私たちを探る。かななかのぶひろの仕事は、そんな探索の旅のようだ。

**2022.5.28 [sat.] ⇒ 9.25 [sun.]**

開館時間: 9時~17時(入館は30分前まで) / 水曜休館 / 観覧無料 / 協力: イメージフォーラム

萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち  
 **前橋文学館**



提供 朝日新聞社

#### かななかのぶひろ KAWANAKA Nobuhiro

1941年東京生まれ。これまでに長短100あまりの実験映画を手がけ、自己のモチーフを真摯に追求する作品を発表する一方、イメージフォーラムの設立を主導するなど、日本の実験映画やビデオアートの胎動期にあって、その発展のために、中心的役割を果たした。80年代は、アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパ諸国を日本の実験映画プログラムを持って長期間ツアーし、初めて海外に日本の実験映画を本格的に紹介した。また、イメージフォーラム映像研究所や東京造形大学において、新人の育成にも尽力し、教育者としての実績も大きい。「月刊イメージフォーラム」初代編集長。主な作品に『スイッチバック』(1976)、『私小説』シリーズ(87~96)、『映像書簡』シリーズ(1979~/萩原朔太郎と共作)などがある。

postcard



1.『私小説』(1987年) 2.3.『映像書簡2』(1980年) 4.『経路(route)』(2015年)  
 5.『時の繻ふたび』(2017年) 6.『スイッチバック』(1976年)

#### ◎同時期開催

「すべてのものをすてて、わたしはよみがえる。  
 —生誕135年記念 大手裕次展—

#### ◎アクセス

電車：JR前橋駅から徒歩20分  
 上毛電鉄中央前橋駅から徒歩5分  
 自動車：関越自動車道前橋ICから車で15分  
 ※広瀬川サンパーク(市営P結束)のご利用に際しては、駐車券に特別処理をいたします。



開催中のイベント等は  
 前橋文学館HPやSNSで  
 ご確認ください。



前橋文学館 HP



前橋文学館 Twitter

Check! ▶

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によって、開催や内容の変更をさせていただきます場合があります。ご来館の際は、事前にホームページをご覧ください。お電話でも問い合わせください。

Designed by studio vision Tatsushi Ishiro



萩原朔太郎  
 大全2022



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

**前橋文学館**

〒371-0022群馬県前橋市千代田町三丁目12-10  
 TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512  
<https://www.maebashibungakukan.jp>